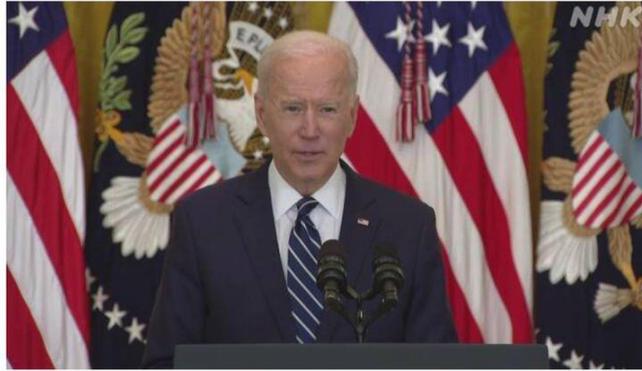




No.69 民主主義は課題を解決できるか



バイデン大統領 就任後初会見 “民主主義と専制主義の闘い”

ミャンマーからのニュースには胸が痛みます。毎日何十人もの人が殺され、拘束、拷問される人は数知れません。

軍部の暴力に対する怒りと抑圧される民衆へのシンパシーは、民主主義を主導する国の原点ではないかと思えます。日本も価値観を共有するなら、外交上の小難しい戦術を議論するよりも、シンプルに民主勢力との連帯を表明するのが出発点ではないでしょうか。

もしミャンマーの民衆が軍事独裁政権を転覆できたら、まさにフランス革命のように自力で勝ち取った民主主義となるかもしれません。しかし民主主義が勝つとは限らないし、仮に民主勢力が勝っても、民主主義を確立し持続できるかはもっとわかりません。ロシア革命にしてもアラブの春にしても抑圧的な既存体制を破壊したあと新たな独裁政権を生み出しただけとなると、苦勞して獲得した勝利を理想の実現に結びつけるのは大変難しいことです。

日本は民主主義国家だと誰もが信じて疑いませんが、命をかけて自分の力で民主主義を勝ち取ったわけではありません。明らかに戦争に負けてアメリカから与えられたものです。

日本人は平穩安寧を強く求めている、江戸幕府であろうが明治政府であろうが、お上の言うことをよく聞いて社会秩序を守ります。争い事を好まない日本人は、民主主義を勝ち取るための闘いであっても、実力行使へのシンパシーは生まれにくいかもしれません。

殺し合いをしなくても政権交代が実現できる「選挙」という仕組みは貴重です。しかし選挙の結果がより良いものを生み出すかはわかりません。ナチスも選挙で権力を掌握しました。

もし幕末に選挙という仕組みがあったら、幕藩体制の存続を求める現状維持派が大勝利したのではないのでしょうか。一人一人決断を求められたら、圧倒的多数は維新なんか選ばなかったらと思うます。

今の日本も多くは天下の大勢を知らず、隠遁無事を好み、安寧秩序の惰眠を貪って、新しい時代への対応を拒絶しているのではないか？アメリカも分断や格差の問題を解決できないのではないか？不人気な政策を掲げては選挙ができない現実の中で、なんとか賢い民主主義であって欲しいものです。